

# 児童会・生徒会活動

児童会・生徒会の計画や運営

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立福木小学校	校長氏名	重田 小百合	生徒指導主事氏名	松島 秀平
-----	-----------	------	--------	----------	-------

## 取組事例名 『自分たちの力によって進める活動』

## 取組のねらい『望ましい集団づくり』

○よりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、予防的生徒指導の推進を図る。

## 取組の具体的内容『自主的な委員会活動の取組』

- 執行委員会の取組「学級・学年によるあいさつ運動」「あいさつ標語の募集」「いじめ防止標語の募集」「キッズワールド（異学年交流）」
- 運動委員会の取組「長縄大会」
- 生活委員会「あいさつマイスター」「犬のふん禁止ポスター」
- 放送委員会「無言清掃の呼びかけ」
- 飼育委員会「動物愛護標語」
- 図書委員会「読書感想文の紹介」

「あいさつ運動」



「長縄大会」



「キッズワールド」



## 取組の課題・創意工夫『自分たちの力で運営する力』

○児童の活動が主体的、自発的になるように、児童自らが工夫して、自分たちで運営していく活動内容を設定した。特に、「あいさつマイスター」「キッズワールド（異学年交流）」については、児童の主体的な考えや取組内容を重視した活動になった。また、「キッズワールド（異学年交流）」は、自分だけではなく、ペア学年にも楽しんでもらうように取り組んだり、自分たちのクラスの出し物が楽しめるようなものになるようによく考えたりしていた。「長縄大会」では、よりよい学級や人間関係を築こうとする仲間づくりが出来ていた。

## 取組の成果（効果）『自発的な活動による成就感』

○今年度は、前年度までと違って、児童自らが活動内容を考え、代表委員会に提案して、活動に取り組んだものもある。その中でも、特に、「あいさつ運動」や「あいさつマイスター」の取組については、自主的な活動を行うことによって、自分たちで成功させたという成就感を味わわせることができた。また、今年で5回目になる「長縄大会」では、毎日練習することにより、各学級で望ましい集団づくりができ、成績も大きく向上したことで達成感も得た。

### **今 後 の 展 開『集団としての連帯意識を高める』**

「キッズワールド（異学年交流）」は、各クラスや学年の枠を超えた取組である。他の活動もよりよい学校にするための活動であり、学校全体で取り組んでいるという意識をもたせるとともに、連帯感を養っていく必要があると思われる。

### **他校へのアドバイス『本校の委員会の取組』**

「長縄大会」「あいさつマイスター」の取組は、児童の自主的な取組として、どの学校でも取り組みやすい活動である。

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立草津小学校	校長氏名	関本 宏	生徒指導主事氏名	志田 あすか
-----	-----------	------	------	----------	--------

**取組事例名 『くさつピカピカプロジェクト』****取組のねらい『無言清掃』**

掃除の方法を統一して，無言清掃に取り組むことで，中学校区の目標の一つである「責任を果たすことができる」児童を育成する。

**取組の具体的内容『くさつピカピカプロジェクト』**

「くさつピカピカプロジェクト」

- ・環境美化委員会が中心となり，学級全体で取り組む。
- ・毎月第3週に無言清掃ができた人数などを学級内で集計する。
- ・学級の取組の結果を集計して，取組み結果がすばらしい学級は，給食放送で発表して賞状を渡す。
- ・環境美化委員会で無言清掃の方法を動画で撮り，学校全体で視聴する。

**取り組みの課題・創意工夫『動画』**

- ・掃除の方法を学校全体で視聴し，統一することで，教員全員で指導することができる。
- ・動画は，低学年でも理解しやすい。
- ・DVDを各学年に配布することで，担任がいつでも掃除指導に活用することができる。

**取組の成果（効果）『トラブルの減少』**

- ・方法を統一することで，掃除道具の扱い方が上手になったり，掃除がスムーズに進むことで，けがやけんかななどのトラブルが減少した。
- ・毎月3週目に，「くさつピカピカプロジェクト」を位置づけ，無言清掃ができた人数を集計することで，児童の意識を高めることができた。

**今後の展開『当たり前』**

- ・中学校の掃除の様子を小学校でも伝え，卒業後の自分たちの姿を明確にさせる。
- ・「中1ギャップ」を無くす一つの手立てとして，無言清掃が当たり前に見える児童を育成したい。
- ・来年度，担任がかかわっても，掃除指導がスムーズにできるようにするために，教員自身も統一した掃除の方法を理解して，学校全体で同じ指導が毎年できるようにする。

**他校へのアドバイス『小中連携』**

- ・中学校の掃除方法を参考に，小学校の掃除方法を定めることで，9年間を見据えた取組になる。
  - ぞうきんのかけ方やほうきの掃き方
  - 掃除の手順
- ・動画を撮影して，全校一斉で取り組む。
- ・委員会を活用する。

- 後ろ向きで「こ」をかくように拭いていく。



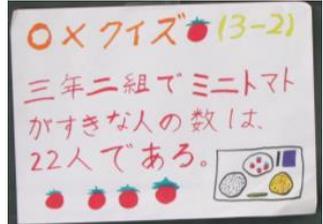
- 拭いたところから順番に机を運んでいく。



- 中学校の掃除風景（中学校区の3校が掃除を実際に見学するためお互い学校訪問をした）



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

<b>学校名</b>	広島市立観音小学校	<b>校長氏名</b>	三上 正浩	<b>生徒指導主事氏名</b>	別府 正己
<b>取組事例名 『児童会活動（冬の集会）』</b>					
<b>取組のねらい『キーワード：児童のかかわり』</b>					
<p>○異学年交流を通して、児童がかかわりあいながらコミュニケーションをとったり、協力したりする。</p> <p>○高学年児童は計画やゲームなどの活動を通して、下学年に対しリーダーシップを取り、思いやりの心をもって接する。</p>					
<b>取組の具体的内容『キーワード：楽しむ』</b>					
<p>冬が始まる時期に、計画委員会（児童会）が主催して、全校児童が寒さを吹き飛ばすための集会をする。具体的な内容は、縦割り集団のクイズ・ゲームラリーで、グループで工夫して多くのコーナーを回り、かかわりあいながらポイント集めを楽しむ。</p> <p>下学年は各学級がクラスに関連したクイズを 2 問考えて掲示する。</p> <p>上学年の各学級は簡単なゲームを計画し運営する。</p> <p>また、各委員会はそれぞれの活動に関するクイズを 2 問考えて掲示する。</p>				 <p>【下学年が考えたクイズ】</p>	
<b>取組の課題・創意工夫『キーワード：全員参加』</b>					
<p>児童会活動は、児童が主体となって活動するものである。そこに、縦割り集団の活動を取り入れることで、児童相互の理解を深め、高学年の優しさやリーダーシップをより育てることができる。</p> <p>また、ゲームやクイズを考えるために学級や委員会で話し合いをすることで、全ての児童と教員が企画や運営面でも参加出来るように工夫する。</p> <p>クイズやゲームの内容も学年を指定しており、全員が参加できるように工夫する。</p>					
<b>取組の成果（効果）『キーワード：生徒指導の三機能』</b>					
<p>この児童会活動を通して上学年児童はリーダーシップを発揮し活動をやりきることで達成感を味わうことができ、下学年児童と接することで優しさや責任感を育むことができた。下学年児童は上学年の態度や行いを見て学び、親近感をより深め、憧れを抱き、規範意識も育っている。これらの活動は生徒指導の三機能を高める活動である。</p> <p>活動は学校生活において異学年児童に親しく声をかける姿が見られたり、放課後一緒に遊ぶところを見かけたりすることができ、児童間の相互認知、相互理解は高まったといえる。</p>					
					
【リーダーを中心にクイズに取り組む】			【ゲームに挑戦中】		

## 今後の展開『キーワード：規範意識の広がり』

縦割り集団の活動では、児童会集会や全校清掃でも行っており、グループ内の仲間意識は児童の中に定着してきている。今後、リーダーとして活躍してくれた6年生に、在校生が「お別れ集会」でペンダントや歌、演奏のプレゼントする際にも心がこもると考えている。

また、校内にとどまらず地域でも、気軽に声をかけたり、お互いの存在を意識し合ったりすることで、お互いに刺激し合い、規範意識の高まりが期待できる。



【ゲームを運営する側も工夫して楽しそう】



【閉会式の様子(学校長のまとめ)】

## 他校へのアドバイス『キーワード：ペア』

縦割り集団は、全校一斉だけでなく、ペア学年も活用している。集団の中でも2重の構造をもっており、5・6年のリーダーだけでなく、4年生もサブリーダー的な役割を受けもち、集団をまとめていく力の育成へとつながっている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八木小学校	校長氏名	宮田 稔	生徒指導主事氏名	原田 宏子
-----	-----------	------	------	----------	-------

**取組事例名** 『いじめ防止取組強化月間（9月）—児童会が中心となった取組』

**取組のねらい** 『キーワード 八木小学校をふわふわ言葉でいっぱいにして』

児童会の取組

この学校をやさしい言葉でいっぱいにして、いじめを未然に防ぐ。

**取組の具体的な内容** 『キーワード 取組の見通しを持つ・優しさを具体的な言葉で表す』

児童会が主体となり三つの取組を行った。

①全校児童でやさしい言葉を見つける。（9月～10月初旬）

- ・各クラスで「ちくちく言葉」について考える。
- ・各クラスで「ふわふわ言葉」をたくさん見つける。
- ・クラスを超えて「ふわふわ言葉」を見つかる。

②やさしい言葉いっぱいの八木小学校集会を行う。（10月中旬）

- ・「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」について考えたことや、学校での様子を作文にして発表する。（各学年で1名）
- ・作文発表後、意見交換を行う。



③元気をもらえるようなキャラクターを募集する。（11月）

- ・みんなを和やかにしたり、勇気づけたりする言葉を参考に名前をつけたキャラクターを全校児童に考えてもらい募集する。



- ・応募作品を掲示し、全体で発表する。

### **取組の課題・創意工夫『キーワード 全児童・全職員の意識統一』**

取組に対する温度差が、クラスや学年により生じたように感じる。取組を提案する時、代表委員会を開くが代表委員が3年生以上のため、低学年に提案理由や活動内容が伝わりにくいことが考えられる。低学年にもしっかり提案理由や活動が伝わるよう代表委員会で工夫をする必要がある。また、全教職員が取組をしっかり把握するため、来年度は代表委員会に低学年の先生が参加するように検討していきたい。

### **取組の成果（効果）『キーワード 取組の共有』**

いじめ未然防止の取組として、児童が主体となる取組を行っている。昨年度は、児童会が中心になって「いじめを防ぐ三つの勇気」を考え、全児童がその勇気について意識できるような取組を行った。今年度は、本校の課題でもあった「人を傷つける言葉の多さ」について児童会で考え、優しい言葉遣いがどのようにしたらできるかを児童会執行部を中心に取り組んだ。各クラスの取り組みを全体で発表後、意見交換を行った。学年なりに自分の思ったことを全校児童の中で伝え合うことができ、それを聞き合うことは、とても有意義だった。また、児童の発案である「優しさやふわふわ言葉キャラクター」募集は、全児童が一生懸命取り組む要素の一つになった。

### **今後の展開『キーワード 継続』**

9月のいじめ防止月間から取組をスタートし、11月まで継続した。年度末まで活動を継続させるため、児童会行事の中に「ふわふわ言葉でいっぱい」の要素を取り込んでいきたい。1月には児童会行事「八木っ子まつり」があるが、その中でも学年を超え「ふわふわ言葉」を伝え合えるような取組を継続させたい。

### **他校へのアドバイス『キーワード 児童主体の取り組み』**

児童が主体になった取り組みは、時間がかかる。しかしながら、児童の思いもよらない発案などにより活動の中で児童の心に残るものが増えてくるように思う。そして、児童自身が自分の言葉で思いを伝え合うことが、お互いの心に響くのだと感じる。一生懸命取り組む上級生の姿を見て、下級生が育っていくような取組を大切にしたい。

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立寺西小学校	校長氏名	東田 宏昭	生徒指導主事氏名	植野 勝也
-----	------------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『あいさつリレー』****取組のねらい『キーワード 自主的なあいさつ』**

全校児童に、あいさつを自分からするという状況をつくり、体験させることで、自主的にあいさつをする児童を育てる。

**取組の具体的内容『キーワード 全校児童があいさつ運動にかかわる』**

児童会の取組として、朝、校門に立ち、「あいさつ運動」を実施してきた。そこで、その輪を全校に広めていきたいと考え、全校37学級が日替わりで、あいさつをアピールするカードをもち、校門に立つという、「あいさつリレー」の取組を実施した。担当学級の児童は、登校してくるとすぐに校門に行き、カードを持って並び、登校してくる児童に声かけをする。担当は6年1組から始め、高学年から低学年へとリレーしていき、後期前半終了（12月末）までに全学級が行った。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 先生方のアイデアで楽しく』**

「あいさつリレー」の方法は、各学級で工夫、応用して行うように委ねた。ある学級では、校門で「あいさつリレー」の活動を行った後、「～人にあいさつできるように、校内で頑張りましょう。」と校舎内で声をかけて回ったり、校門まで出てくるのに時間がかかる1年生は、廊下で元気なあいさつを響かせたりといった工夫がみられた。また、それぞれの学級で工夫したことを全体で紹介することで、効果のある活動が他の学級へも広がっていった。

**取組の成果（効果）『キーワード 相手の立場になる 抵抗がなくなる』**

子どもたちがこの取組を通して、先にあいさつをする側に立つことで、「あいさつをすることは気持ちいいことだ。」「あいさつをかえしてくれないといやな気持ちになる。」などに気づき、校内でのあいさつがよく返ってくるようになった。あいさつをすることの抵抗をなくすという面でもたいへん効果のある取組だった。

（以下、児童の日記より）

○わたしは、いつも朝、みんなにあいさつをしていたので、はずかしがらずできました。でも、あいさつをしてもかえしてくれない人もいて、すごくいやな気持ちになったので、これからはあいさつをしようと思いました。

○「おはようございます」わたしは、あいさつリレーのとうばんでした。あいさつをするとあいさつをかえしてくれるのでいいし、さむくなくなってあたたかくなりました。いつもの朝よりもあたたかいので、あいさつリレーのとうばんじゃなくてもいつもやりたいです。（中略）きもちのよいあいさつをする

ことはマナーです。(中略) わたしは守りたいと思いました。わたしは、休みの日でもちいきの人に会ったかならずあいさつをします。

### 今後の展開『キーワード より自主的な活動へ』

児童会から具体的なあいさつの姿を全校に提案し、進んであいさつをすることを通して児童同士や地域とのつながりを深めたり、相手を思いやる気持ちを育てたりする活動につなげていきたい。また、自分たちのあいさつによる成長が実感できるように、地域の方からの話や児童会による全校朝会や掲示物による評価等を取り入れていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 工夫を広げ、評価をする場を』

全校児童が先にあいさつをする側に立つという体験は、自主的なあいさつにつながっていく。担任が学級活動の時間などを活用して、この活動にどのように取りこませるかを、工夫させ、考えさせていくことが、この活動をよりよいものとする鍵となると考える。学校組織としても、これらの工夫を全体に広げる場や、評価をしていく場を積極的に取り入れていきたい。

平成28年 1月18日 中国新聞で紹介されました

西条の寺西小学級ごとにリレー形式

## 校門あいさつに 地域を元気に

東広島市西条町、寺西小の全校児童がクラスごとの「あいさつリレー」を毎朝、正門前で続けている。昨年10月に始めた運動。氷点下の朝も元気な声が学校周辺に響く。

「おはようございます」。午前7時半、元気な声が次々と響き始めた。15日の当番は6年3組の約30人。白い息を吐き、学校の前を通る住民や中高校生のお兄さん、お姉さん呼び掛ける。登校して

きた下級生にあいさつしながらハイタッチする児童も。

全学年計37クラス。首から下げた「あいさつリレー」と書いた紙をバトン代わりに翌日の担当クラスに引き継ぐ。児童が地域の人に自発的にあいさつでき

いずれも6年の金本涼佑君(12)と加登彩香さん(11)は「あいさつが返ってくるとうれしい。大きな声で呼び掛けられるようになった」と話していた。

(森岡恭子)



登校する児童に並んであいさつする6年生

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立高美が丘小学校	校長氏名	澤田 直哉	生徒指導主事氏名	中山 佳代
-----	--------------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『めざせ あいさつ レベル4』**

**取組のねらい『児童全員の挨拶意識の向上』**

より良い学校生活を送るために、「高美っ子めあて」の重点目標の一つである「あいさつ」についての取組を学校全体で行い挨拶が進んでできる児童を増やすことで、自主的・実践的な態度を育てる。

**取組の具体的内容『呼びかけ合う挨拶運動』**

○児童会による朝の挨拶運動

- ・児童会役員児童が毎朝校門と玄関前に立ち挨拶を行っている。
- ・登校してくる児童の顔を見て「自分から大きな声で笑顔で」の「あいさつレベル4」を意識して挨拶をしている。
- ・毎月、中学校の先生が児童会役員児童と一緒に挨拶を行い、中学校の先生の感想を聞き、お昼の放送で紹介している。



<あいさつレベルの指標>

○学年で工夫して行う「あいさつを広げようキャンペーン」

- ・学年が担当する月の中で1週間程、学年で挨拶を頑張れるような方法を考えて挨拶が増えていくように取組を行っている。

6 学年	6 月	最高のあいさつを!
5 学年	9 月	あいさつの花を咲かせよう。
4 学年	10 月	みんなにあいさつしよう。
3 学年	11 月	あいさつ名人見つけた!
2 学年	1 月	あいさつ名人大集合!
1 学年	2 月	パワフルあいさつ



○全校朝会「高美っ子めあて」～挨拶編～

- ・月初めに、学年や教師がその月の「高美っ子めあて」を紹介しみんなで守ろうと呼びかけている。「挨拶はなぜするのか」「どんな挨拶をめざすのか」話し合ったり、いろいろな挨拶を比較して練習し合ったりして全体で意識していくようにしている。

○生活アンケート

- ・年間3回の生活について14項目のアンケートを取り、児童の意識状況をとらえ、取組や指導に生かした。

挨拶項目と指標：「すすんであいさつはできていますか」(90%以上)  
 「あなたのあいさつレベルは、何ですか」  
 (レベル3以上90%以上)



## 取組の課題・創意工夫『相手に伝わる挨拶に』

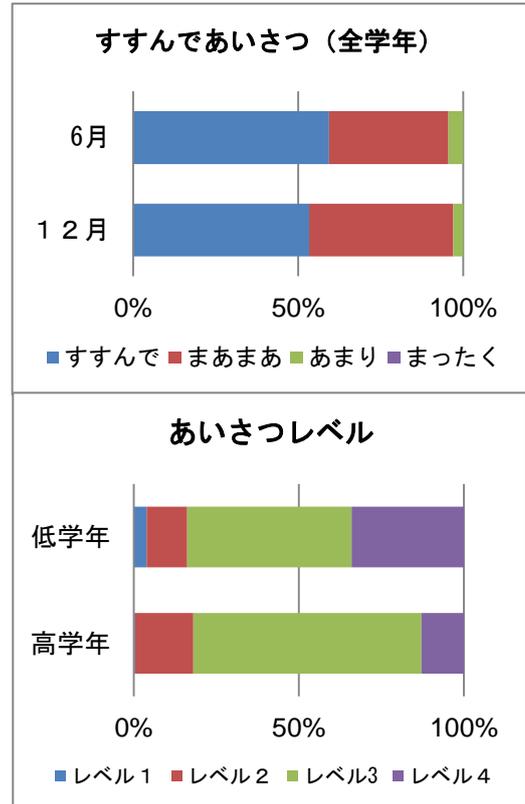
生活アンケートの結果から、ほとんどの児童が「進んで挨拶ができる」と答えている。しかし、日常の挨拶は教師や保護者・地域からの意見を聞くと、まだ十分できているとは言えない状況が見られる。挨拶をされたら挨拶を返すことはだいたいできるが、自分の挨拶の仕方に甘んじて、客観的に見ることでできていないことが課題である。そのために、児童同士での挨拶の機会を増やし意見を述べてもらうために「あいさつキャンペーン」等を取り入れた。お互いが気持ちのよい挨拶を意識し合うことをねらった。

## 取組の成果（効果）『笑顔で挨拶 上昇中』

生活アンケートの結果から、全校で挨拶に取り組むことで、「進んで挨拶ができる」と答える児童は96%に増えた。登校時に児童会役員が元気に挨拶をして呼びかける姿が全体の良い見本となり全学年に良い影響を与えている。また、中学校の先生方からの意見や感想は、児童全体の励みとなり、児童会役員児童の達成感にもなっている。さらに、各学年の挨拶の取組を学年で考えることで自主性が育ち、児童同士が挨拶をし合い、挨拶をした相手の返し方を見ることで自分の挨拶を意識し、より良い挨拶をしようとする向上心も育ってきていると考える。しかし、挨拶がでにくい児童が固定化している傾向があるので、個への取組が必要である。

学年別に見ると、学年が上がるにつれて「進んで挨拶することがまあまあできている」が増え、あいさつレベルでは「自分から大きな声で挨拶をするーあいさつレベル3」が増える傾向が見られる。つまり、学年が上がるにつれて、レベル4よりレベル3が増えている状況がある。

本校がめざす「あいさつレベル4」は、「笑顔で」がキーワードである。「笑顔で挨拶することは気持ちを込めること」を1月に全校に呼びかけて取組を進めている。



## 今後の展開『高美っ子の笑顔の挨拶』

本校がこれからめざす挨拶として、「レベル4」の挨拶の内容の中で、さらに「自然にできる挨拶」を目指したいと考える。気持ちのこもった挨拶が自然にできて、「笑顔の挨拶」が広がるのが「高美っ子の挨拶」である。「笑顔の挨拶」が心からできるよう、日々人間性を育て、高美が丘小学校の挨拶がこれからもより学校から地域へと伝わっていくようにしていきたい。

## 他校へのアドバイス『挨拶が自分からできるように仕組む』

挨拶ができるということについて、つい態度面でできることにとらわれがちである。まず、教師や高学年や地域が模範を見せ、それができるように進めていくことはもちろんではあるが、自主性や実践を促す場を教師が仕組み評価をしていくことや、態度面だけでなく心理面を育てていくことが大切だと考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立郷田小学校	校長氏名	東 克則	生徒指導主事氏名	西宮 利三
-----	------------	------	------	----------	-------

**取組事例名 『キラキラカード』**

**取組のねらい 『笑顔のあふれる学校』**

- ・ 友達の良さを見つけてキラキラカードに書く活動を通じ、お互いを認め合い、学び合う人間関係を築く。
- ・ 自らもより良くなろうとする態度を育てる。
- ・ 「東広島いじめゼロ宣言」を具現化する。

**取組の具体的内容 『全校児童 キラキラサイクル』 『児童会 やりきる』**

- ① 児童会 計画 ・年 2 回(6 月～7 月・1 月～2 月)「いじめ・体罰アンケート」とリンクさせて実施する。  
 ・キラキラカードを書いてもらい、集約する。  
 ・目標枚数を設定する。(前期 500 枚・後期 600 枚)
- ↓
- 準備 ・学年カラーのキラキラカード・教室掲示用呼びかけ文・キラキラポストなど
- ② 児童会 全校放送で、全校児童に呼びかけた後、呼びかけ文を持って各教室を回り、直接呼びかける。
- ③ 全校児童 キラキラ (友達の良いところ・してもらってうれしかったこと・いいなと思う言葉)を見つける。
- ④ 全校児童 キラキラをカードに書いて「キラキラポスト」に入れる。
- ⑤ 児童会 給食準備時間に毎日枚数を数え、特設の掲示板に掲示する。(放送カード専用掲示板を用意)  
 その日に集まったカードの中から、望ましい内容のカードを数枚選んで給食時に放送する。  
 放送の最後に一言コメントをつける。
- ↓
- ⑥ 全校児童 掲示してあるキラキラカードを読む。
- ⑦ ③に返る。
- 児童会 キラキラ月間終了後、全校朝会で集まった枚数を報告、自分達の感想や意見を発表する。

**取組の課題・創意工夫 『多様性』 『横に縦に』 『数も質も』**

- 『多様性』
- ・ 「良さ」が偏ることを防ぐために、できるだけ毎日違うキラキラが書いてあるカードを選んで放送し「良さ」の多様性に気付かせる。
- 『横に縦に』
- ・ 同じ学級・学年だけでなく、違う学年の友達のことを書くように、児童会が放送で呼びかけたり、教職員が直接アドバイスしたりすることで、異学年との交流を深める。
- 『数も質も』
- ・ キラキラをたくさん見つけたことも、内容の良さも、毎日の放送を通じて、両方を認める。

**取組の成果(効果) 『キラキラの連鎖』 『一目瞭然』 『自主的に』**

- 『キラキラの連鎖』
- ・ キラキラカードを書いている児童も、書いてもらった児童も笑顔である。
  - ・ 友達の「キラキラ」をまねようとするのが、思いやりのある行動につながっている。
  - ・ 「キラキラ」の種類が多様になり、さらに進化した「キラキラ」が見られるようになった。
- 『一目瞭然』
- ・ 掲示自体が評価になり、キラキラカードを書こうという意欲につながった。
  - ・ キラキラカードの色を学年ごとに変えたことが、学級や学年の連帯感をもつことにつながった。
- 『自主的に』
- ・ やるべきことがシンプルではっきりしているので、児童会をはじめ、全校児童も自主的に活動できた。

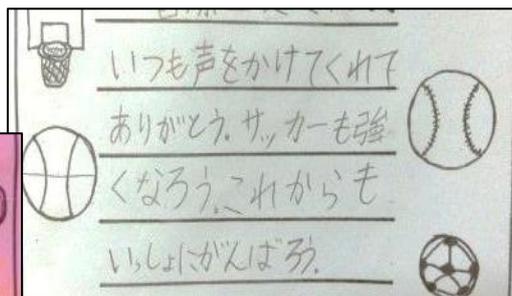
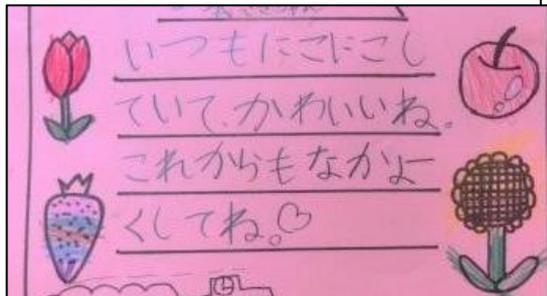
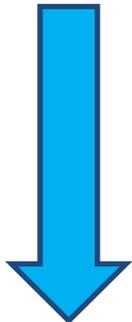
**今後の展開 『笑顔を自信に』**

- ・ 「良さを見つけられる自分」「良さを見つけてもらった自分」を自覚させ、自信につなげていく。
- ・ 友達の「キラキラ」を真似、友達とのつながりを意識した行動ができるように発展させる。

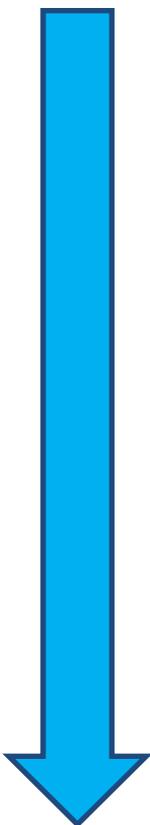
**他校へのアドバイス 『シンプル』**

- ・ 自分のやるべきことがはっきり分かっているシンプルな活動にする。
- ・ 児童が無理なく続けられる活動にする。
- ・ 誰もが「喜び」や「達成感」を感じることができ、「やってよかった」と思える活動にする。

キラキラカード  
【〇〇さんへ・〇〇より】



キラキラカードの掲示・放送



全校への報告



## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長氏名	松江 都志美	生徒指導主事氏名	永山 英治
-----	-------------	------	--------	----------	-------

**取組事例名 『たて班掃除』****取組のねらい『6年生の自己有用感を高める』**

異年齢集団による「たて班掃除」の活動を通して、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。

とりわけ6年生が5年生以下の児童らを、「たて班掃除」の活動を通して評価し指導することで、6年生の自己有用感を高める。

**取組の具体的内容『日常的な異年齢集団活動の設定』**

生徒指導部で全校児童を80班にわけ、同じ組の担任で構成した組会を通して各班の構成員を吟味し、班構成を最適化し、校内に80箇所の掃除場所を設定した。

教職員が指導を担当する場所を適切に割り当て、問題行動をとることが予想される児童を担当する教職員を相性などに考慮し優先して決定した。

運営委員会（児童会）の主導により、たて班掃除のオリエンテーションの計画と運営を行った。

掃除の時間は、開始時に点呼し、10分間掃除を行った後、班毎に集合し、5分間で掃除の状況について自己評価する。各班の班長（6年生児童）が班員を指導し、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価する。毎週末に、班長はMVPを1名選定する。

美化委員会が主導し、毎月末に、各班の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、毎月児童朝会の時間に表彰する。

掃除場所は2ヶ月間固定する。

**取組の課題・創意工夫 『意図的な肯定的評価（適切に計画的に褒める）』**

各班の構成員の自尊感情を高めるために、教職員が肯定的な評価を意図的に計画的に行う。まず、評価する児童を決め、よく観察し、具体的な好ましい言動に対して適切なタイミングで周囲に分かるように価値付けしたキーワードで褒める。

また、6年生の自己有用感を高めるために、5年生以下の児童が、6年生に憧れを抱いたり、尊敬したりすることができるように6年生や他の班員に対する肯定的な言葉のかけ方を工夫した。

**取組の成果（効果）『異年齢集団活動（たて班掃除）で6年生の自己有用感が高まる。』**

同じ組の担任で構成した組会を組織し、協議する体制をとることで、各班構成を最適化できた。また、今後の縦割り班による多様な活動を展開する素地ができた。

担当する学年以外の児童を指導する機会を持つことで、他学年の児童の様子を知ることができ、児童理解が深まった。また、教職員が協力して全児童を指導しようとする機運が醸成されつつある。

問題行動をとることが予想される児童を担当する教職員を児童と教職員との相性や信頼関係の深さなどを考慮し優先して決定することで、問題行動をある程度予防する体制を整えることができた。

運営委員会（児童会）のメンバーに、たて班掃除の意義と目標を理解させる時間を十分に確保することで、児童が自主的な指導・判断に基づく集団活動が展開できるように援助することができた。その結果たて班掃除の全児童に対するオリエンテーションの計画と運営を運営委員会が主導し、運営委員会のメンバーが運営に対して成就感・充実感・満足感を持つことができたと考える。

掃除の時間には、まず10分間掃除を行った後、班毎に集合し、残り5分間で各班の掃除の取組につ

いて自己評価した。各班の班長（6年生児童）が班員を指導したり、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価したり、週末に、班長がMVPを1名選定したりすることで、班長の自己有用感を高める機会をつくることができた。

さらに、美化委員会が主導し、毎月末に、各班の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、毎月児童朝会の時間に表彰することで、美化委員会のメンバーの自己有用感を高めることができた。また、表彰を通して、児童らの掃除に対する意欲を高め、所属するたて班における豊かな人間関係の構築につながったと考える。

### 【運営委員会によるオリエンテーション】



### 【たて班掃除に対する感想（6年生児童）】

わたしの思う、たて班そうじに  
おける6年生の役割は、2つあり  
ます。  
1つ目は、下級生を育てること  
です。また自分も成長すること  
です。例えば、1～5年生にたくさ  
んおこるわりには、自分自身は、  
たくさんしゃべってたりそうじ  
をしないようであれば、6年生ら  
しくもないし、6年生がリーダー  
をする意味がないと思うからです。  
2つ目は、違う学年とも、交流  
を深めていくことです。同じ学年  
と話すだけなら今のそうじのしか  
たでも問題はないと思います。た  
てわり班なりの交流のしめたがあ  
ると思います。  
この二つのことは、わたしは、  
とても大事なことだと思います。  
これを心かけることによつて、た  
て班の意味が変わってくるのでは  
ないでしょうか。

たて班掃除の意味が完璧に分かっていますね、とても楽しみです。

### 今後の展開『異年齢集団活動の多様化』

異年齢集団による「たて班」活動を多様に展開することで、さらに、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。6年生が5年生以下の児童を多様な「たて班」活動を通して評価し指導することで、6年生の自己有用感を日常的に高める機会を設定する。

### 他校へのアドバイス『活動を展開する際にはデメリットも丁寧に語る』

異年齢集団による掃除活動を計画し実施するまでに1学期間を費やした。既存の枠組が変化することに対して教職員に不安を与えたことが、その大きな要因と考える。

新規の活動を立ち上げるためには、デメリットについても丁寧に説明した上で、最終的にはメリットがデメリットを上回ることをしっかり語ることと、丁寧な根回しが大切だと改めて実感した。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長氏名	関藤 一智	生徒指導主事氏名	永井 利明
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『リーダーの育成』

取組のねらい『キーワード リーダー性の育成』

みんながよりよい学校生活を送るために、協力して諸問題を解決しようとする自主的実践的態度を育てるとともに高学年児童にリーダーとしての役割を自覚させる。

取組の具体的内容『キーワード 主体性』

◎あいさつの取組



◎あいさつ運動

- ・「いつでも どこでも だれにでも あいさつをしよう」をスローガンに掲げ、児童会と職員で挨拶運動をする。

◎あいさつ貯金魚

- ・児童会役員が、あいさつをしている児童を肯定的に評価し、あいさつを主体的に行えるようにする。

◎学級委員会

4年生の反省	5年生の反省	6年生の反省
○守れた ○守れなかった	○守れた ○守れなかった	○守れた ○守れなかった
( 1 3 ) 人 人	( 0 3 ) 人 人	( 3 3 ) 人 人
○さつちり守れた ○さつちり守れなかった	○さつちり守れた ○さつちり守れなかった	○さつちり守れた ○さつちり守れなかった
( 2 1 ) 人 人	( 0 3 ) 人 人	( 1 0 ) 人 人

- ◎児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話し合い活動の充実及び活性化を図るために学級委員会を開く。

◎各学年で話し合ってくる内容

- ・ 毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標
- ・ 学校生活の中でよかったと思うことや困っていること
- ・ 児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は随時児童会に連絡する）



### ○事後の取組

- ・児童会だよりを全教職員と各クラスに配布する。
- ・よかったことについては給食時間の放送で紹介する。
- ・気になっていることや困っていることは、児童会から各クラスに連絡し、解決をしていく。

### ◎縦割り班活動



### ○無言清掃

- ・全学年の縦割り班で、5つの約束（バンダナを付ける。無言で掃除をする。時間いっぱいまでする。自分の役割を果たす。片付けをする。）について、やり切ることを目標に掃除をする。
- ・6年生のリーダーを中心に毎日振り返り、そうじ点検表に記録し、次の日につなげる。

### ○リーダーによる絵本の読み聞かせ。（毎週水曜日）

#### 取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底』

- ・生活目標を考えることはできたが、日々の生活の中で、全ての児童が、意識して行動できていない。
- ・縦割り班清掃で、肯定的評価は高かったが、リーダーが真面目に取り組まなかったり、リーダー以外の高学年が遊んだりしているグループがある。
- ・中学校とあいさつ運動の交流をすることにより、「先輩たちのあいさつは声が大きくてすごかった。」「礼がそろっていてよかった。」「先輩たちのまねをしたい。」という感想を持っていた。

#### 取組の成果（効果）『キーワード 自覚と習慣化』

- ・毎月、学級委員会を開くことによって、学級会活動で話し合いを持ち、自分たちの生活を考えるようになってきた。
- ・縦割り班そうじで5つの約束を守れた児童の割合は、平均すると85%であった。児童の反省では肯定的評価をしている児童が85%いた。また、リーダーの自覚を持って行動する児童が増えてきた。

#### 今後の展開『キーワード 継続と発展』

- ・学級会活動で自分たちの生活を見直すことができたり、縦割り班活動を取り入れることによってリーダーが育ってきたりしている。この取組を継続し、さらに学級会活動を活発にし、学校生活をより良くしたり、リーダーが主体的に活動したりするような取組をしていきたい。

#### 他校へのアドバイス『キーワード 主体性の育成』

- ・リーダーや児童会役員などと、どのような活動にしていくか話し合い、考えさせることによって主体性が育成される。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中小学校	校長氏名	池田 哲哉	生徒指導主事氏名	中國 達彬
-----	-----------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『児童会活動 スタート時期の指導 ～児童会役員への指導を中心に～』**

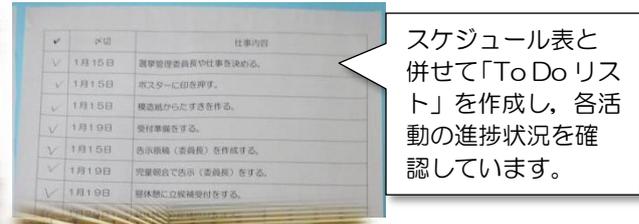
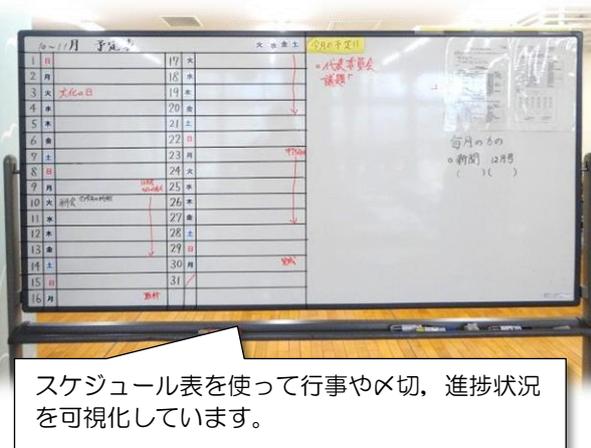
**取組のねらい『キーワード・・・教師主導から児童主導へ』**

これまで本校の各児童会活動については、教師主導型の活動が多く、児童が主体的に動く機会（場、活動）を十分につくることができていなかった。その結果、全校児童（児童会役員を含めて）の児童会活動への関心は低く、各児童会活動を通して児童の「主体性」や「自治的活動への意欲」を十分に育てることができていなかった。そこで今年度は、「児童が主体的に活動できる場をつくること」を目標（ねらい）とし、教師がその目標を念頭に置きながら指導を継続することとした。

**取組の具体的内容『キーワード・・・PDCAサイクル』**

「児童が主体的に活動できる場をつくる」ことを目標に、児童会役員が選出された直後（2月中旬）から次のような手立てを講じた。特に児童の動きに「PDCAサイクル」が生まれるように留意した。

- ①スケジュール表（ホワイトボード）を制作する。【P】
- ②各取組について「担当者」「メ切」を決める（スケジュール表を使って各進捗状況を可視化する）。  
また、すべきことの詳細は「To Do リスト化」することで作業漏れを未然に防ぐことができた。【P】
- ③活動場面では極力教師からの介入を避ける。介入（助言）はできるだけ活動前後にまとめて行う。【D】
- ④活動ごとに“教師→児童”“児童→児童”の「評価する場（褒める場）」を設定する。【C】
- ⑤次の活動に向けた話し合いの際に、話し合い（議論）の具体的な方法について指導する。【A】



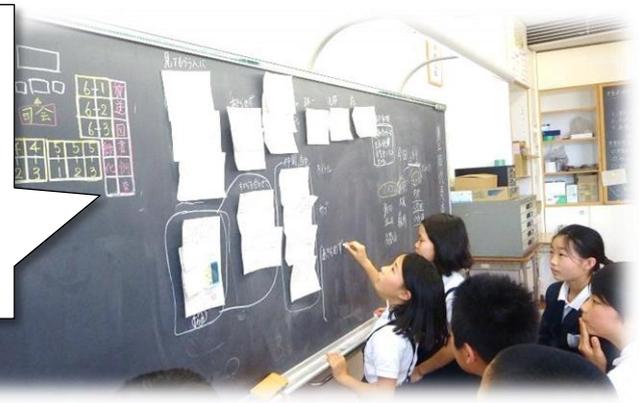
**取組の課題・創意工夫『キーワード・・・教師の介入方法』**

**課題①**「アイデアの出し方」や「意見のまとめ方」といった話し合いの形式自体に慣れていないため、どうしても教師が介入せざるを得ない状況が（頻繁に）生まれた。

**創意工夫①**

初期段階においては、積極的に介入することにした。司会原稿（手本）を提示したり、「ブレインストーミング」「KJ法」といった方法を教えたりと、技術的な側面は積極的に指導した。

※写真は「KJ法」を使って問題を解決している場面



課題② 児童から意欲的にアイデアが出されることもあったが、校内体制の中で実現不可能になってしまうことが多く、「アイデアを出してもどうせ無駄なのでは…」という雰囲気生まれた。

### 創意工夫②

校内体制を踏まえたうえであらかじめ条件（時間・期間、場所、使える物など）を提示しておく。



### 創意工夫②

方法論で行き詰まった場合には、常に目的（＝児童会目標）にかえらせる。

「そもそもあなたたちは〇〇がしたいわけではなく、■■な学校が作りたいたいわけですよ。〇〇以外でできることを考えましょう。」

※写真は児童会目標が完成した後の場面

## 取組の成果（効果）『キーワード・・・主体的な活動→自信→さらなる意欲』

①児童が主体的・協働的に動く姿が増えた。「ゴール」とそれに対する「役割」「方法」が明確になることで、児童は一つひとつ教師から助言や確認を得なくても自分たちの判断で物事を動かすことができるようになった。

②活動ごとに「評価する場」を設定したことで、児童に児童会役員としての手応えや自信をもたせることができた。そして、こうした手応えや自信が、次の活動へのさらなる意欲にもつながった。



2学期になると、各活動も教師の介入なく進めることができるようになりました。



運動会では、児童会役員アイデアにより、保護者・地域の方からのメッセージを掲示する「メッセージボード」を作成しました。

## 今後の展開『キーワード・・・スタート時期も児童主体の動きを』

①旧児童会役員と新児童会役員とがいっしょに活動する期間を約1ヶ月間（2月中旬～3月中旬）設け、その間に児童会役員としてのノウハウ（仕事や話し合いの技術など）を児童から児童へと直接引き継いでいけるようにする。

②旧児童会役員に対して、1年間の児童会活動を振り返っての「成果」「課題」をまとめさせておく。そして、児童にとっても、教員にとっても、より効率的で充実感・達成感を感じられるような児童会活動をめざす。

## 他校へのアドバイス『キーワード・・・教師の仕事は、「仕掛けること」と「評価すること』

「教師の主な仕事は仕掛けをつくること、そして評価すること」という意識で取り組みました。これまではPDCAサイクルの中でも、「D」や「A」に重点を置いて指導してきましたが、今年は（特に初期段階は）「P」と「C」を大切にしながら取組を進めてきました。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立三和中学校	校長氏名	出廣 久司	生徒指導主事氏名	江島 太士
-----	-----------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『自主性を育てる生徒会活動の取組』**

**取組のねらい『キーワード 自治的な活動 自発的な活動』**

- ① 計画的な点検活動などの自治的な活動により、生徒が自分たちの力でまわりを守り、安心して生活できる環境づくりをすることができる。
- ② 様々なボランティア活動を仕組むことで、生徒が自発的に貢献しようとする意識を高める。
- ③ 点検活動やボランティア活動を通して、生徒が自分で考え、判断し、行動できるような自主的な態度を育てる。

**取組の具体的内容『キーワード 計画的な点検活動、ボランティア活動、評価・表彰活動』**

1年間を通じて計画的に各委員会が点検活動やボランティア活動を実施し、評価・表彰する。

<点検活動>

- 学級委員会…着ベル点検（1、2）・発言点検（全員発言）・授業点検・号令点検・授業点検・朝会集合点検
- 生活・保健委員会…健康観察簿点検・容儀点検・名札点検・遅刻点検・ロッカー点検・セーター袖だし点検・換気点検
- 美化・図書委員会…早朝清掃ボランティアの実施・牛乳パックゴミ点検・ゴミ捨てマナー点検・机の落書き点検・ゴミの取り残し点検・朝読点検
- 給食委員会…残食点検・12:55いただきます点検・ナフキン点検・エプロン点検
  - ① 各委員会が学級に呼びかけ、それぞれの優秀学級をペナントで表彰する。
  - ② 前期、後期を通じて優秀だったクラスをそれぞれの学期の最後に表彰する。

<生徒会主体の主なボランティア活動>

- 挨拶運動・早朝清掃ボランティア…毎週1回早朝挨拶運動や早朝清掃を行う。
- 地域清掃ボランティア…地域に出ていき、ゴミ拾いや清掃をする。
- 緑化ボランティア…プランターに、花を植えて、校内を飾る。卒業式、入学式に飾れるように取り組む。
- 校歌ボランティア…朝会するとき、校歌を執行部と一緒に歌う
- その他…体育祭や文化祭などでもボランティアを募る。
  - ① ボランティアカードでの表彰をする。
  - ② 前期、後期の学期ごとにボランティアにもっともよく参加したクラスを表彰する。



早朝清掃ボランティア



挨拶運動ボランティア



点検結果の掲示



地域清掃ボランティア

**取組の課題・創意工夫『キーワード 日常的な活動へ』**

<取組の創意工夫>

- ① サプライズの点検を取り入れる、長期的な期間の集計による表彰を行う。  
取組がその時だけの単発的な活動に終わらないようにすることで日常的に取り組めるようにする。
- ② 評価を工夫する。  
評価は、できている生徒の姿や頑張っている姿を必ず評価し伝える。ペナント表彰をする。ペナントは原則絶対評価とし、各クラスがペナントを目標にできるようにする。(ペナント10枚で大ペナント1枚)



### 【ペナント】



### 【表彰の様子】

月ごとの集計を比較し校内掲示するとともに、朝会や集会で表彰することによって、単なる競争ではなく、全校で達成感を持つことができるようにする。

#### ③ 発展的に点検活動を行う。

着ベル点検において点検項目を「全員が着ベルできる」から「全員が授業道具を机の上に準備して着ベルができる」に発展させることで、点検活動のレベルアップを図り、発展的な活動にしていく。

#### ④ 各分掌と連携し、取組を行う。

あいさつ運動ボランティアにおいて、生徒指導部の登校指導と一緒にするなど、各分掌の取組と活動を相互的、総合的、計画的に組み込んでいくことで各活動がより効果的に行うことができるようにする。

#### <取組の課題>

#### ① 点検の意味をはっきりさせずに活動を行うと点検の効果が少ない。

#### ② 点検活動やボランティア活動を下ろすだけの委員会に終わらないようリーダーを育てる委員会として機能するよう指導の工夫が必要である。

### 取組の成果（効果）『キーワード 意識や意欲の向上』

① 点検活動を生徒自らが行うことで、違反者を減らすだけでなく、正義を生徒が生徒に伝えることができ、生徒の力で学校を良くしていこうという意識の向上につながった。

② 生徒が点検項目を発展させていくことで、クラスで意欲的に取り組む姿が見られるとともに、生徒自らが学校や生活の環境をさらに向上させていこうとする意識の向上につながった。

③ ただの点検にとどまらず、進歩率を表にし、全学年の掲示板に貼りだしたり、朝会や集会で点検結果やボランティア参加者を報告したりすることで、三和中学校の成長を生徒と教員が共有することができ、全体で成果を共有し、次の活動への意欲につながるとともに、行事間のつながりや分掌間の連携など、その後の生徒指導や分掌の取組に活かすことができるようになった。

④ ボランティア活動に自主的に参加する生徒が増加するとともに、部活動や学級での参加が見られるようになり、生徒のボランティアに対する意識の高まりが見られるようになった。また、校内のゴミの減少や挨拶できる生徒が増加するなど、三和中学校のマナー向上が見られるようになった。

### 今後の展開『キーワード 主体的な取組へ』

① 今年度の活動や成果を引き継ぐとともに、点検活動やボランティア活動を見直し、各委員会で生徒の意見を取り入れ、点検活動をさらに発展させていく。

② 各委員会で生徒の意見を取り入れ、生徒自らが主体的に取り組んでいけるようにし、リーダーを育てる委員会として機能するよう指導を工夫していく。

③ 点検のときだけでなく、日常的に活動ができるようにしていく。

④ 各分掌間で連携し、計画的、組織的に行うことで、効果的な取組にしていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード 組織的な取組』

① 「点検活動をなぜ行うのか」という活動の目的を生徒や教職員が確認し、取組を行う。

② 点検を通じて、生徒に「頑張ることによって成果が出た」「取り組むことによって学校が変わってきた」ということを実感させ、次への意欲づけをさせる。

③ 生徒の成果を子どもが実感できるよう、教職員で組織的に取組を行う。

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立戸坂中学校	校長氏名	丹 孝子	生徒指導主事氏名	奥村 聡
-----	-----------	------	------	----------	------

## 取組事例名 『生徒の主体的な活動を取り入れた合唱コンクール』

## 取組のねらい『キーワード 文化祭を成功させよう』

落ち着いた雰囲気の中で文化祭に臨み、他学年や他クラスの発表を静かに聞くことができる鑑賞態度を身につけさせる。

## 取組の具体的内容『キーワード グッドマナー・ベストマナー』

文化祭の行われる 1 週間（10/5～10/9）、着ベル・身だしなみの 2 点に関して生徒会が中心になってチェックを行う。

- 着ベル点検 - 代議員会（各クラスの代議員が点検する）  
点検時間… 1 時間目開始時～ 6 時間目開始時まで。文化祭のステージ発表の部においては、全 3 回の休憩終了後に行う。  
点検基準…ベルが鳴り始めた時点で席についていない人、授業道具を出していない人は違反とする。  
授業中に係の仕事（集配・黒板等）を行った場合も違反とする。  
集計方法…その日の着ベル点検結果は、その日の 6 時間目の終了直後に代議員が点検表（事務室前）に記入する。
- 身だしなみ点検 - 保健体育委員会（各クラスの保健体育委員が点検する）  
点検時間…朝学活。文化祭のステージ発表の日は、開会式の前に一斉に行う。  
点検基準…① 上靴（下靴）をきちんと履いている。  
② 名札が付いている。  
③ シャツが入っており、ボタンがとまっている。（夏服）  
上着・シャツのボタンがきちんととまっている。（冬服）  
※ 移行期間のため、冬服・夏服の基準に従う。  
集計方法…その日の身だしなみ点検結果は、その日の 6 時間目の終了直後に保健体育委員が点検表（事務室前）に記入する。
- 表彰…文化祭を含めた 5 日間の合計で評価する。各点検において基準を設け、点検の結果基準値をクリアしたクラスを「グッドマナー賞」として表彰する。また、5 日間の中で、着ベル・身だしなみ違反が「0（ゼロ）」（最も少ない）のクラスを「ベストマナー賞」として表彰する。



表彰式



『グッドマナー賞・ベストマナー賞』表彰

### 取組の課題・創意工夫『キーワード すべての委員会で文化祭を』

各委員会が文化祭にそれぞれ主体的に取り組めるように、役割分担した。時間を守る意図の着ベルは代議員会、容儀を整える意図の身だしなみは保健体育委員会、文化祭会場を含めた美化整備は美化委員会、というようにそれぞれの委員会ごとに分けた。

点検活動においては、概ね委員会の生徒が判断したが、いくつかのケースで判断をできないことがあり、担任や教科担任の手助けが必要であった。また、身だしなみの点検においては、遅刻者の扱いの判断に迷う部分があったので、今後はあらかじめ明確にしておく必要がある。

### 取組の成果（効果）『キーワード 生徒同士の働きかけ』

合唱コンクール当日、休憩後の集合・着席が委員会を中心とした生徒の声かけにより比較的スムーズにできた。ほとんどのクラスで、代議員が中心となり生徒同士の積極的な働きかけができていた。時間を守ることについては、多くの生徒が意識し、努力していた。また、身だしなみを整えることについては、最初の呼びかけから最終目標をステージ発表のステージ上であることを意識させ、クラスの中の生徒同士がお互いを点検し合っていていけない生徒に声をかけるといった、生徒同士の働きかけができていた。

### 今後の展開『キーワード 全校が集合する場面を大切に』

学校生活における様々な集合の場面、特にPTCや犯罪防止教室、全校朝会等全校が集合する場面を大切に、取組が活かされるようにしていきたい。教員主導ではなく生徒からの呼びかけで今まで以上に、全体が意識して動いていけるようにしていきたい。また、学年集会など、学年ごとに集まる機会も同様に、身だしなみを正すことも含めて生徒による呼びかけを中心に、進めていけるようしていきたい。

3年生は卒業式を、1・2年生は修了式を今年度のゴールととらえ、達成感を感じることができるようにしたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード ゴールを意識した取り組み』

本校では「文化祭のステージ発表をいかに良いものにするか」という発想からこの取り組みが始まった。当日は学校を離れ、公共施設を借りての実施であるため、どうしても生徒の意識の中にお祭り気分が生じ、身だしなみや時間厳守については、当日だけでなく、1週間前からの意識付けが必要であると考へて取組を始めた。取組期間からすでにコンクールが始まっているという意識を持った生徒が多数おり、しっかりゴールを意識させたのは良かったと思っている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立高美が丘中学校	校長氏名	脇坂 治海	生徒指導主事氏名	佐藤 豊
-----	--------------	------	-------	----------	------

**取組事例名 『生徒会の企画によるロッカー・机・椅子チェック』**

**取組のねらい『キーワード 自主的・自発的・自治的な活動・集団活動』**

- 生活三訓（挨拶・時間厳守・整理整頓）の整理整頓について、生徒会が企画立案し、生徒に提案し取り組むことで生徒一人一人が自主的・自発的に集団生活や生活環境の向上にむけて具体的な行動をすることができるようにする。

**取組の具体的内容『キーワード 生徒会主体・ロッカー・机・椅子チェック』**

- 生徒会執行部が公約に基づいて企画立案する。
- 生徒三訓の整理整頓に注目し、放課後のロッカー・机・椅子の整理整頓に取組をしぼって実施する。
- 『美 (be)・高美「物を探す時間」を「物を使う時間」に』をキャッチフレーズに決定し実施する。
- 毎週火曜日と金曜日の放課後に、生徒会が各教室をまわってチェックを実施する。
- 各クラスの意欲が高まるよう、チェックの結果は、生徒玄関に掲示するとともに生徒朝会で報告する。
- 実施の前には、生徒朝会において生徒会長より取組の目的や概要、実施方法、具体的な整理整頓の方法について説明する。
- 常に確認できるよう、整理整頓の方法について写真入で各クラスに掲示する。



**美 (be)・高美 「物を探す時間」を「物を使う時間」に**

学校に置いて帰ってよいもの (1年)

国語	教科書、ノート、学習漢字、 二百字帳 以外すべて。
社会	ワークブック、資料集。
数学	ファイル、レスキューファイル。
理科	ファイル、資料集。
音楽	教科書、器楽の教科書、ファイル、合唱曲集、リコーダー(実技テストのときは持って帰って練習します)。
保健体育	図解体育、ファイル、帽子、 保健教科書、保健ワーク。
技術家庭	教科書、ノート、ファイル。
美術	教科書、資料集、ファイル。
英語	辞書。



『ロッカー』  
①扉を開き整理整頓。  
②「学校において帰ってよいもの」以外は持ち帰る。  
『後援教室や放課後の教室』  
①椅子は机に入れ、縦横をそろえる。  
②机の上に教科書などを出しっぱなしにしない。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底・継続・評価』**

【課題】

- 3年生が生徒会活動から引退後の取組となった為、3年生は他の学年に比べて取組に対する意識を高めることができていない。結果として、特に3年生では徹底できていない。
- 生徒会としてはじめての取組であるが、今後、どのように取組を継続していくのか、またどのようにして生徒の整理整頓に対する意識を継続させ定着させるのかについて検討が必要である。
- 生徒会活動と各教科等とを関連づけて実施することはできていない。

### 【創意工夫】

- ・各クラスの評価としてチェックの結果が分かるように生徒玄関に掲示。また生徒朝会においても報告する。
- ・個別の指導に関しては、チェックの結果を各担任等に報告し、整理整頓ができにくい生徒に対して教職員も支援する。

月日	1-1		1-2		2-1		2-2		3-1		3-2	
	ロッカー	机	イス	ロッカー	机	イス	ロッカー	机	イス	ロッカー	机	イス
1-1	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
1-2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
2-1	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
2-2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3-1	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
3-2	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X

### 取組の成果（効果）『キーワード 主体的』

- ・生徒会が企画した生徒主体の取組となっていることで、生徒自身の意識が高まり、お互いに声をかけ注意しあうなどの変化が見られた。
- ・取組の様子を学年通信や PTA 総務委員会などを通して情報発信することで、家庭の理解や協力を得ることもできた。

### 今後の展開『キーワード 発展・自治的な活動・集団活動』

- ・生徒会執行部はもとより、生徒自身が学校生活を通して課題を見つけ、改善していくことができるよう生徒会活動を中心とした生徒が主体となった自治的な活動や学校行事などの集団活動を発展させ充実させていく。また、そういった活動を通して、生徒一人一人に、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てていく。

### 他校へのアドバイス『キーワード 生徒会活動の充実』

- ・教職員の指導による取組だと、“やらされている感”の強くなりがちな取組も、生徒会が中心となって主体的に取り組むことでより多くの生徒の取組に対する意識を高めることができた。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長氏名	利田 亨次	生徒指導主事氏名	得能 彩子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『縦割り掃除』**

**取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』**

- ・生徒による自発的、自治的な活動を通して、達成感や自信をもたせる。
- ・主体的に学校づくりに参加し、学校の一員としての意識や責任感を養う。

**取組の具体的内容『キーワード 自己決定の場を与える』**

- ① リーダー会を開催し、縦割り掃除の意義づけや、班決めを行う。  
1・2学期は3年生がリーダー、3学期は2年生がリーダーとなる。班は10～12名とし、16班作成する。
- ② 全校でオリエンテーションを実施する。リーダーからの決意表明や、取組方法を確認する。その後、各班に分かれてのミーティングを行う。
- ③ 掃除の初めと終わりには、リーダーを中心に必ず班でミーティングを行う。掃除方法や、班員の掃除分担などは生徒同士で話し合いをさせて決定、実施する。また、リーダーと担当教員が相談し、掃除に遅刻してきた生徒への対応など班員が時間いっぱい掃除に取り組めるような工夫を考える。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 生徒に権限と責任を与える』**

- ・アイデアや工夫に対する評価  
美化委員会による、表彰や各班の取組の紹介を実施した。表彰は、美化委員会が掃除の様子を確認し、表彰基準を設け、「クリーンキーパー賞」の表彰を行った。各班の取組が分かるような紹介では、各班の取組をポスターにして掲示したり、独創的な取組を生徒会集会で紹介したりするなどした。
- ・予算を与える  
各班に2000円の予算をつけ、それぞれの班で必要な掃除道具を購入した。例えば、一人一本マイブラシを持てるようにしたり、激落ちくんやたわし、高い窓を拭けるようなワイパーなどを各班ごとに購入し、班ごとに工夫しながら掃除に取り組むことができた。
- ・リーダー、教職員アンケートの実施  
時間の経過とともに、マナーリ化が課題となってきた。そのため、リーダーや教職員に定期的にアンケートを実施し、啓発を行うことで、縦割り掃除の意義づけを再認識させた。また、アンケート結果を生徒に提示し、課題の発見とともに、取組の改善点を考えさせた。

**取組の成果（効果）『キーワード 自発性や自主性、自律性の育成』**

- ・生徒アンケートの結果

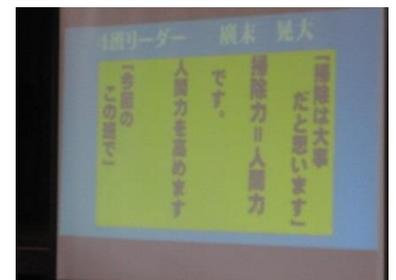
	昨年12月	5月	今回	昨年12月比
	肯定	肯定	肯定	
掃除を時間いっぱい真面目に取り組んでいる	71.9	85.6	86.9	↑ 15.0
係や委員会活動などの仕事に積極的に取り組んでいる	77.9	81.2	81.7	↑ 3.8
係や委員会活動などの仕事を通して、自分はみんなの役に立っていると思う		54.5	61.1	↑ 6.6
学校やクラスの行事に参加することは楽しい	76.6	81.1	80.6	↑ 4.0
クラスや学校のいろいろな活動に貢献していると思う	55.8	65.4	65.1	↑ 9.3

## 今後の展開『キーワード 定着と徹底を基盤としたさらなる創造』

- ・今年度の取組を継続し、本校の伝統・文化へとつながるよう、全教職員で一つひとつの取組の意義を共通理解し、徹底して取り組んでいく。
- ・現状維持にとらわれるのではなく、『創造』する気持ちや雰囲気づくりを持ち続け、生徒が主体となった取組を継続させる。

## 他校へのアドバイス『キーワード 生徒の実態に合った取組』

- ・生徒の実態を分析し、それに伴った取組をする必要がある。本校の生徒には、「生徒の自己肯定感が低い」という実態と、「仲間意識が強く、生徒同士のつながりを大切にしている」という特徴がある。そのことを踏まえ、生徒同士が協同して取り組むことにより、自己肯定感を高め、主体性や自律性を育成するために縦割り掃除を実施した。全教職員で、今何をするべきか焦点を絞った取組を考え、実践していくことが何より重要だと考える。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長氏名	井上 一男	生徒指導主事氏名	金子 浩之
-----	-----------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『学校行事の改革』**

**取組のねらい『キーワード 覇権の奪還』**

これまで本校の縦割りの体育大会や鶴羽ヶ丘祭（文化祭）のような学校行事は、生徒の主体性を育むという理由のもとに、主導権が生徒に偏っていた。このことは学校生活全般にも言えることで、教師の指導が通らない場面が多くあるように感じた。そこで行事をいったん教師主導の運営に切り替えるとともに、生徒の主体性を育む取組を工夫することで、徐々に主体性を鍛えることをねらいとした。

**取組の具体的内容『キーワード ひたむきさ』**

3年前、鶴羽ヶ丘祭への生徒の関心の多くは、学校や生徒会が企画する内容ではなく、有志で参加する歌や出し物が中心で、偏った内容を目的とする一部の生徒主導の文化祭であったが、生徒の正しい主体性を育てるために主導権を教師側に取り戻し、教師主導の鶴羽ヶ丘祭に変えてきた。

大学の応援団を迎え、自分のことは後に回し、声をからし、汗を流し、顔をゆがめながら、ただひたむきに人のために応援する姿から真のかけよさや美しさを感じ取らせたいと考え企画した。



平成 25 年度 関西大学応援団



平成 26 年度 同志社大学応援団



平成 27 年度 吉中太鼓  
(尾道市立吉和中学校 3 年生のみなさん)

**取組の課題・創意工夫『キーワード 自己の解放』**

初年度から応援団のみなさんのひたむきに応援する姿から学ぶことは大きかったが、応援パフォーマンスに参加して自分を解放できる生徒は少なく、クラス対抗の合唱コンクールでもピアノばかり目立ち、声を出し切れない生徒やクラスも多くあった。しかし二年目から自己を解放し大きな声で応援パフォーマンスに参加したり、合唱コンクールでも声を出せないクラスはなくなりはじめた。

三年目は、尾道市立吉和中学校の3年生を迎えた。これまでの大学生から学んだひたむきな姿から、市内の同じ中学生に切り替え、一糸乱れず和太鼓に打ち込む同年代の中学生が魅せる演奏の姿からひたむきさを感じ取らせるようにした。またクラス合唱や学年合唱だけでなく、377名による全校合唱に取り組んだ。



平成 27 年度 全校合唱 「大地讃頌」・「ふるさと」

### 取組の成果（効果）『キーワード つながる』

応援団やチアリーディングの大学生の姿から本物のひたむきさを学ぶことからスタートした取組であったが、三年目には同じ中学生の姿から学ぶ場を設定した。本気の和太鼓演奏から受けとめたものは多く、応援のエール交換をした本校生徒の姿からは、「自分たちも...。」という気持ちを強く感じ、エールを返してくださった吉和中学校の生徒のみなさんをグラウンドで見送りながら互いに手を振り合う中学生同士の姿から「つながり」と次への意欲を感じ取ることが出来た。

### 今後の展開『キーワード 覇権の委譲』

これまで行事の主導権をいったん教師側に取り戻し、本来の主体性を育むよう取組を三年間進めてきたが、現在その3年生の後ろ姿を追いかけてきた2年生生徒会執行部が動き始めた。これからは少しずつ生徒主体の行事運営に戻せるように、いっそう生徒会を中心とした生徒の主体性を鍛えていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード 生徒会活動の活性化と生徒の主体性』

ひたむきに他人のために動く人の姿は、生徒の意識を変えることがわかる。本校の取組ではお迎えした本物のひたむきさから学ばせていただいたが、学校の中で人のために活動するという点では、生徒会活動がそうあるべきなのだと考える。

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校長氏名	迫田 隆範	生徒指導主事氏名	宮部 英巳
-----	-----------	------	-------	----------	-------

## 取組事例名 『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』

## 取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』

平成 26 年度の学校の状況は、暴力行為（1 件）触法行為（1 件）問題行動（30 件 \*この内、特別な指導 11 件）いじめの認知件数（2 件）不登校（2 名）であり、服装の乱れ、授業妨害、授業エスケープ、指導に従わない、暴言、携帯、等の不要物の持ち込み、自転車通学違反、地域の施設や登下校でのマナーの悪さ、生徒間トラブルなどが課題として挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり、生徒同士の指摘がなかなかできない状況が、全体の落ち着きのなさにつながっている。現状の改善のためには、生徒自身の自己肯定感を向上させ、自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり、生徒同士の結びつきを深め、自治活動を活性化させることで問題行動の減少につながると考えた。そのため、生徒会活動やボランティア活動等の、生徒の自治活動や主体的な活動の推進を行った。

## 取組の具体的内容『キーワード 無理なく』

平成 27 年度の取組としては、生徒会と連携し、まずは不十分な掃除から見直すことからはじめた。掃除中に全員掃除ができないことから、掃除の班自体を見直し、縦割りの掃除班をつくった。3 年執行部を中心に掃除リーダーが掃除に入り、集合から解散まで掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。（無言清掃の取組）平成 26 年度 3 学期より実験的にスタートし、少しずつ変更を加えながら現在に至っている。また、これと並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ、放課後 15 分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 同時に』

年度途中でまったく新しいことを始めるよりも、現在の方法を改善し修正を加えることで、生徒に運営をまかせ、それを教職員が補助するといった意識の転換から、掃除をやりきる方向へスムーズな移行を目指した。また、実験的に年度途中から行うことにより、もしうまくいかなかったら方法は改善するというやり方で、生徒と教職員の負担感を軽減した。また、これと並行してボランティア活動を生徒会から計画し実行に移すことで、掃除と同じくボランティアの意識の向上を生徒に意識させた。

## 取組の成果（効果）『キーワード 自分たちで』

縦割りの掃除班での掃除は、取組前と比べて確実に向上した。特に、掃除リーダーへの指導を事前に行うことで、教職員が掃除に関する指導をする場面が少なくなった。また、新 1 年生には掃除の方法や、流れを全体で生徒会が指導し、実施前に指導する形をとったことも成果が出ている要因である。また、ボランティア活動もペットボトルキャップ分別、折り鶴制作など、計画して実行し、各回約 100 名程度の生徒が参加している。



## 今後の展開『キーワード 改善』

掃除を徹底させるためには、生徒のボランティア意識の向上にも同時に取り組むことが必要である。生徒自らの自治活動で実行するよう、促す方法をとろうとする取組であり、良い点も多く見られた。一方で、掃除場所の担当教職員の不足、掃除の点検表への記入、ボランティア意識等の課題もあり、少しずつ改善を行っている。また、掃除を無言で行うという部分では、まだ課題も多い。しかしながら、掃除の質は確実に以前よりもよくなっていることから、さらに目的意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう取組の充実を図る予定である。

また、自治活動の活性化のため、各委員会ごとに活動を決め（各学級の掃除評価合計、各学級の日々の授業評価合計、各学級の本の貸し出し数合計等）、学級単位で評価をして、学期に1回表彰を行うYATSUGI PRIDE CUP（YPプロジェクト）という取組も今年度から導入している。これらの取組を通して、生徒のボランティア意識を向上させたいと考えている。



## 他校へのアドバイス『キーワード 教職員の意識向上』

生徒の意識変革の前に、指導する教職員の意識変革が不可欠である。この部分では、まだ十分といえる段階ではない。今後も教職員を含めて意識の向上を図り、生徒会への働きかけにより自治活動の活性化につなげていきたい。

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立安西高等学校	校長氏名	澄川 利之	生徒指導主事氏名	北野 和則
-----	------------	------	-------	----------	-------

### 取組事例名 『第 40 回全国高等学校総合文化祭「2016 ひろしま総文」平成 27 年度国際交流事業』への参加

#### 取組のねらい『キーワード グローバル事業（国際交流事業）の活用』

第 40 回全国高等学校総合文化祭広島大会のプレ行事の一環として、大韓民国よりソウル国際高等学校の生徒の訪問を受け入れ（7 月 23 日）、日韓の相互交流を図る。

#### 取組の具体的内容『キーワード 生徒会執行部と実行委員会を中心とした主体的活動』

- ソウル国際高等学校受け入れに際して、生徒会執行部が有志を募り、生徒実行委員会を立ち上げた。
- 実行委員会については、生徒会執行部の生徒、姉妹校ルーズベルト高校への派遣生徒、韓国語を独学している生徒等の計 9 名の生徒で構成した。実行委員会の指導、助言のために特別活動部 1 名、教務部 1 名、生徒指導部 1 名の計 3 名の教職員を配置した。
- 実行委員会（2 学年生徒 4 名、3 学年生徒 5 名）を中心に歓迎のための企画を考え、準備を進めた。

##### 【本校の催しの内容】

- ・校歌合唱（太鼓付）
- ・パワーポイント、英語による本校の紹介
- ・書道部による大書揮毫（吹奏楽部の演奏付）



- ・記念品交換
- ・食文化履修生による調理接待，実行委員とソウル国際高等学校生徒との意見交換
- ・歓迎の様子



#### 取組の課題・創意工夫『キーワード 交流を通じた校内諸活動の活性化』

##### ○創意工夫

- ・交流を通して、平成 27 年度から始めた校歌合唱，ハワイ姉妹校への派遣生徒の事後研修，部活動などの活性化を図った。
- ・校内の委員会を積極的に活用した ～ 会場設営及び片づけは各クラスの学級委員，特別活動委員が担当した。

##### ○取組の課題

##### ①事前準備等にかかる活動の時間の確保

実行委員会を開催しても、該当生徒の中には進路関係の用事や補習と重なって、全員が集まることが難しいこともあった。事前準備の期間が限られていたこともあるが、生徒会執行部，各部活動所属部員，実行委員生徒などの連携を日頃から強化しておくなどの取組も必要であると考えます。



## ②交流事業に向けた校内全体の雰囲気づくり

おもてなしの意識について、全校生徒への連絡（宣伝）をもう少し早めにして、全校生徒が関わられるおもてなし（折鶴を準備する・手紙や色紙・歌？）を用意したり、韓国語を学んだりして気持ちを高める取組をすると更によかった。また、時間が確保できれば、エンターテインメント性のある発表（歌やダンス？）等も双方の緊張が早くほぐれるのではないかと考える。

## ③ひやま館（校内研修施設）での意見公開会で工夫

韓国の生徒は本校の実行委員や食文化の生徒に個々にお土産を用意されていたので、本校の生徒にも個々にお土産（本校のゆるキャラ、「コノちゃん」をモチーフにしたグッズなど）を用意するなどの工夫も必要であった。韓国語の日常会話を書いた紙を1テーブルに1枚ずつ事前に準備したことは役に立った。

## 取組の成果（効果）『キーワード 自主的な態度の育成』

### ①事前の準備を通して、自ら進んで物事を行おうとする態度が育ったこと

全校生徒で見送りをしようという案を実現させるために、実行委員の生徒が見送り計画案を練り、校長に提案した。また、当日のレセプション会場までのバスでの移動時間を楽しんでもらうためのアイデアを出し合うなかで、高校生の興味・関心から出るアイデアは教員では思いつかないもので、生徒のおもてなしの心が感じられるものであった。

### ②積極的に他者と交流する態度が育ったこと

意見交換会の場面では、普段は英語に苦手意識を感じている生徒も、英語と事前に準備した韓国語を交えて積極的にコミュニケーションを図ろうとしていた。また、実行委員のメンバーだけでなく、同席した食文化選択者も一緒になって、みんなで交流を深めようとする態度が見受けられた。

### ③世界を見る視野が広がったこと

ひやま館での意見交換会や翌日（7月24日）の国際交流コンサート会場においても、本校の生徒たちが韓国訪問団の生徒たちと積極的に会話しようとする態度が見られた。意見交換会は限られた生徒しか出席できなかったため、他の生徒の中にも「ぜひ自分も出席したい」という発言もあったと事後に聞いた。学校全体での交流会という大きな行事を通じ、生徒の異文化への関心が高まったと思われる。



## 今後の展開『キーワード 県の事業の積極的活用』

グローバル化をすすめるための取組として県の事業を活用した。管理職、学校がこのような事業を活用することによって本校生徒が普段では考えられない貴重な経験ができた。他国の高校生と関わり異文化に関心をもったり、感じたりする機会をこの年代で多く持つことは有効であると感じた。また、国は違えど、同年代の感覚を身近に感じ、生徒はたくましく成長した。

## 他校へのアドバイス『キーワード 校内での取組を校外で発信する機会の促進』

今回の事業への参加を通して、本校での取組を校外で披露する機会をつくることの重要性を感じた。地域や他校との交流を含め、今回のような事業を積極的に活用して生徒の自主性とコミュニケーション能力の育成を促進する取組があるとよいのではないかと考える。